

## 日本医療薬学会 第70回公開シンポジウム開催報告書

第70回医療薬学公開シンポジウム 実行委員長 後藤伸之

2018年9月8日(土)、福井大学医学部附属病院 臨床教育研修センター 白翁会ホール(福井県)において、第70回医療薬学公開シンポジウム(主催:日本医療薬学会、共催:福井県薬剤師会、福井県病院薬剤師会)を開催した。当日は、大雨警報も発令されている中、福井県ばかりでなく、石川県、富山県、大阪府、京都府から59名の参加があった。

薬学教育モデル・コアカリキュラム(コアカリ)の到達目標が古くなったこと、実務実習の充実をさらに図ること、内容が過密すぎて大学の独自性が出しにくいこと等の理由からコアカリの改訂版が出され、2015年度の新入生から開始され、いよいよ2019年からは実務実習においても改訂コアカリに準拠した実習が実施される。本シンポジウムでは、テーマを「地域の特色を生かした薬学教育」と題し、基調講演、教育講演、シンポジウムを設けた。

基調講演では、名城大学薬学部 教授 大津史子先生より、コアカリの改訂版で導入されたアウトカム基盤型教育の特徴とその概要を解説された後に、名城大学薬学部で取組まれている教育の質向上を目的に行われている学生の教育効果データを収集・分析されているIR実践の紹介があった。また、教育講演では、福井大学医学部地域医療推進講座 講師 山村 修先生から、百寿者の特徴や疾患特性の分かりやすい解説があり、福井県を例に挙げて百寿社会における医療・療養のあり方についての現状と課題、薬剤師が在宅医療に積極的に参画する必要性について熱いエールがあった。さらに、その中で重要な役割を果たすチーム医療を実践するのに有用なIPE(Inter Professional Education:多職種が参加する医療者教育)について福井大学の取組みが紹介された。

その後のシンポジウム4題は、北陸地区、東海地区、近畿地区での地域の特色を生かした薬学教育について講演があった。最初に金沢大学 松下良先生からは、金沢大学薬学系の教育目標の沿った人材育成のための「患者さんの受診の流れに沿った新実務実習」の紹介があった。次に福井県薬剤師会の角野雅之先生からは、以前から福井県薬剤師会が実践している基幹薬局と協力薬局が連携した取組みの紹介があった。名城大学の黒野俊介先生からは、東海地区で先行導入されている改訂コアカリ(薬局・病院が連携した一貫性のある実習)の現状と課題について話された。大阪薬科大学の角山香織先生からは、近畿全大学で臨床準備教育の統一概略評価基準の作成や病院・薬局の施設連携構築(グループ化)など大学-薬局-病院の連携強化に向けた取組みなど近畿地区での取組みが紹介された。

今回の改訂コアカリに基づく薬学教育の実践により、6年制教育をさらに活性化し、優れた医療人としての薬剤師を輩出できることを期待したい。本シンポジウムは、地域の特性や多職種連携などをキーワードにして実務実習を見直す良い機会になり大盛況のうちに閉会した。

最後に、今回のシンポジウム開催にあたり、共催を頂いた福井県病院薬剤師会、福井県薬剤師会、さらに企画・運営にご尽力いただいた日本医療薬学会事務局の方々には厚く御礼申し上げます。